



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

復活節第6主日 B年(2024年5月5日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：使徒言行録 1章 25—26、34—35、44—48節

第二朗読：ヨハネの手紙一 4章 7—10節

福音朗読：ヨハネによる福音書 15章 9—17節

「わたしはあなたがたを友と呼ぶ」

(ヨハ 15章 15節)

今日の福音朗読は先週からの続きとなります。

10節でイエスさまは、「わたしは父の命令を守ってきた」とおっしゃいます。ここでの動詞は現在完了形だそうです。ですから、「今まで、ずっと守ってきました」という意味でしょう。イエスさまは、父の命令を守ることによって、つまり、その全生涯で父が求められるところを果たすことによって、父の愛にとどまり、父との交わりにとどまられたのです。そして今も父の愛のうちにとどまって生きておられます。

同じように、弟子たちがイエスさまの命令を守るならば、弟子たちはイエスさまの愛のうちにとどまることになり、復活されたイエスさまとのいのちの交わりに生きることになります。

10節の後半の言葉、「わたしの愛にとどまっていることになる」では、動詞は未来形です。「とどまることになるでしょう」という意味です。弟子たちがイエスさまの愛のうちにとどまることになるかどうかは、弟子がこれからイエスさまの命令を守るかどうかにかかっています。その命令とは、12節にハッキリと記されている「互いに愛し合いなさい」です。

13節から15節に「友」という言葉が三回登場します。13節の「友のために」ですが、イエスさまは、誰かのために自分のいのちをささげて、十字架上で死んでいきます。イエスさまの死は、人の罪を贖うための犠牲です。実際に、イエスさまの生涯を見ると、自分のために生き

たことは一度もないです。いつも誰かのためでした。

14 節の「友である」は興味深い表現です。聖書ではアブラハムが神の友と呼ばれていました（イザ 41 章 8 節参照）。また、モーセや預言者も神の友と呼ばれています（知 7 章 27 節）。しかし、『ヨハネによる福音書』では、弟子たちが「イエスの友」と呼ばれるのです。それは、イエスさまが示される愛の掟を知り、それを実行するからです。

15 節で「わたしはあなたがたを友と呼ぶ」とイエスさまはおっしゃいます。「僕」との対比があります。「僕」はギリシア語でドゥーロスです。一般的に奴隷を指します。友人とは対照的に、主人の計画や気持ちを理解できないで、命じられたままに行う人のことです。

イエスさまの「友」にさせていただく。これがキリスト教信仰の核心です。「友」とさせていだいたのですから、イエスさまのお気持ちがよくわかる。イエスさまのお気持ちが分かれば、天の御父のおこころも分かるようになるのです。

16 節で「あなたがたがわたしを選んだのではない」とイエスさまはおっしゃいます。ユダヤ教では、弟子がラビを選んで入門し、その教えを引き継ぎました。しかし、イエスさまと弟子の関係は逆です。イエスさまが選んだのです。一人ひとりの弟子が選ばれた理由は分かりません。ただ、選ばれたのは恵みとなります。

教会はイエスさまが選んでくださった人々の集いです。選ばれたから「偉い」のではなく、選ばれたからこそ、イエスさまが教えてくださる「愛の掟」を生きると招かれているのです。

お知らせ

マリア祭 5月26日 ミサ開始は午前10時半 グランドにて

- ・緑鮮やかなグラウンドで、野外ミサをしましょう。
- ・ミサ後にお弁当を楽しみましょう。当日はお弁当などの販売があります。